

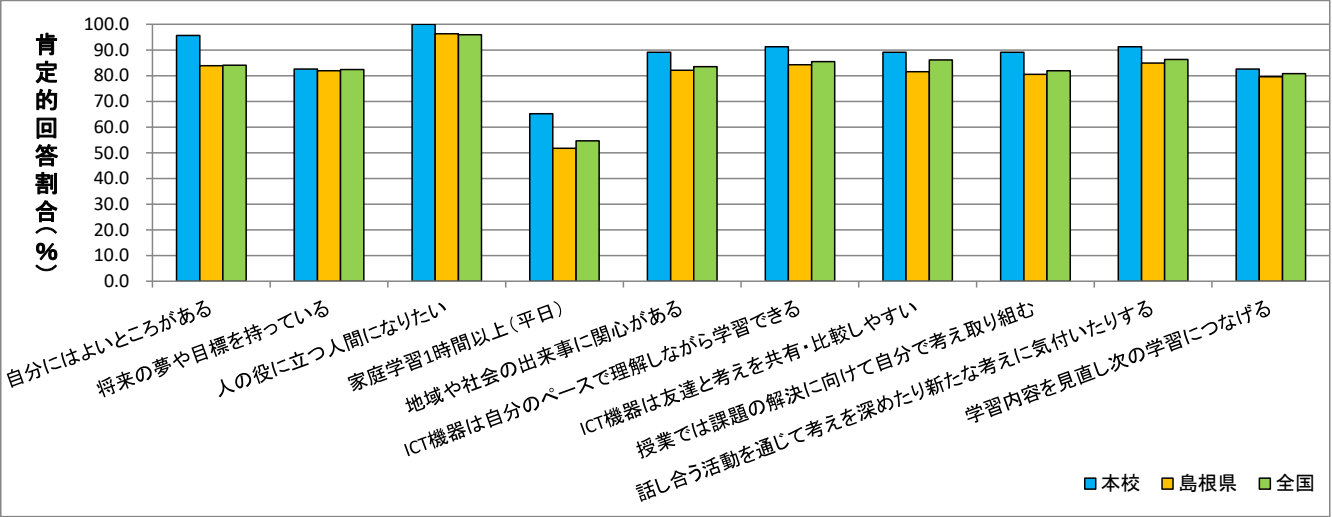
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○全ての領域において、県平均、全国平均を上回っている。 ○与えられた条件で文章にまとめたり、自分の考えを文章で書いたりすることに取り組むことができています。 ●適切なものを選択する問題において、選択肢に書かれた言葉の意味を正しく理解できていなかったり、感覚で選んだりしていることがある。 ●主語と述語、漢字(熟語)の書き取りでは、県平均と全国平均をやや下回っている。	・教科書や新聞など、お手本となるような文章を声に出して読むことで、正しい言葉の使い方を身に付けたり、未知の言葉に立ち止まったりするなど、言語感覚を敏感にするための活動を取り入れる。 ・意味理解や使い方が曖昧な言葉に出会った時に、国語辞典等を用いて調べるなどする習慣を付けさせる。
算数	○基礎的な計算は、概ね身に付いている。 ○言葉や数を用いた説明を記述する問題にも取り組もうとする姿勢が見られ、正答率も県平均、全国平均をやや上回っている。 ●問われていることを問題文から正確に読み取ることに課題があり、必要のない条件から立式、思考したり、複数の問いに落とさずに解答できていなかったりする。 ●既習内容は理解していても、それを活用することに課題がある。 ●「変化と関係」領域においての正答率が低い。	・文章問題に取り組む機会を増やす。 ・問題文の条件に下線を引いたり、数値を書き込んだり、図や式に表したりするなど、読み取ったことを自分で可視化させることで、解答に必要な条件を取捨選択できるようにする。 ・授業の中で、既習事項と現在学習していることの系統性に着目した発問をしたり、復習したりすることで、児童が学習内容のつながりを意識できるようにする。

(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自己を肯定的に捉えている児童の割合が高い。 ○前学年までに、学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動を多く経験してきた。 ○人の役に立ちたい、地域や社会に関心がある、友達との学び合いに肯定的など、他者や周囲への関心が高い。 ●友達との学び合いに肯定的な一方で、自分とは違う意見について考えることを楽しいと感じていない児童の割合がやや高い。 ●日常的に新聞を読んでいない児童が8割以上と多い。 ●家庭学習平日1時間以上の児童の割合が7割に満たない。	・自分と異なる意見や、立場の違う考えについて受容し、相手の思いを汲み取ったり、推し量ったりする言語活動を大切にする。 ・日常的に新聞に触れられるようにしたり、新聞を活用した授業や活動を実践したりしていく。 ・既に実施している「自学大賞」に力を入れ、家庭での自主学習に継続的かつ丁寧に取り組む意欲を高められるような工夫をする。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・お互いの意見や考えを聞き合うだけでなく、相手の考えに対して問い返したり、他者の発言と関連付けて話したりする児童の姿を目指して、校内研究としての授業実践を意識する。
・言語感覚を高められるように、全校で新聞や図書館を活用した授業や活動の実践を進めていく。

【受検者数】
46 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。